

# 垣吉町第一仮設住宅団地における住環境改善と住民の能動的なコミュニティ形成の促進

指導教員 金沢工業大学 准教授 藤井健史

参加学生 4年 平賀水夕 川端一巧 宮嶋亜衣 田代りさ 前川雄登  
藤田琉士 寺島義隆 谷原陵仁 塩田菜々香 西山彩音  
畑佑樹 渡辺智也

我々を暖かく迎えてくださった垣吉町第一団地の皆様に感謝申し上げます。  
また、山本直樹氏をはじめ、垣吉町第一団地自治会の皆様には多大なご協力を賜りました。  
重ねて感謝申し上げます。



GAPPA noto

〔北陸建築学生仮設住宅環境支援プロジェクト〕

# 垣吉町第一仮設住宅団地における 住環境改善と住民の能動的なコミュニティ形成の促進

金沢工業大学藤井健史研究室＋垣吉町第一団地自治会

令和6年度能登半島地震の被災地に建設された仮設住宅団地において、居住者の住環境改善とコミュニティ形成を支援するため、北陸三県の大学・高専による任意団体GAPPA notoが設立された。本活動では金沢工業大学藤井研究室が七尾市垣吉町第一団地(66戸)を担当し、収納改善、グリーンカーテン設置、交流イベント支援などの要望に対応する活動を、自治会と連携しながら2か月に1度程度実施した。

## 2025年5月8日：まなピタ製作配布



## 2025年5月25日：集会所靴箱＋グリーンカーテン



## 2025年7月12日：収納大作戦＋かき氷フェス



## 2025年8月5日：収納大作戦＋オリジナル風鈴づくりWS



## 2025年11月30日：収納大作戦＋とり野菜みそ鍋パーティー



## オリジナル段ボール収納の開発・製作・配布



## 1. 活動の要約

令和6年度能登半島地震の被災地に建設される仮設住宅団地において、居住者の方々の安らぎのある住環境と豊かなコミュニティの形成を支援する目的で、北陸三県の大学・高専を中心とした任意団体 GAPPA noto が設立された。本活動は GAPPA noto の活動の一環として、金沢工業大学藤井研究室が担当する七尾市の垣吉町第一団地（66戸）を対象に行われたものである。これまでの垣吉町第一団地での活動や住民へのヒアリングから、①収納スペースの改善、②グリーンカーテンの設置、③住民が主体的に参加できる交流イベントの開催補助が具体的な要望として挙げられていた。2か月に1度程度の頻度で現地へ赴き、垣吉町第一団地自治会と連携してこれらを支援する活動を実施した。

## 2. 活動の目的

前述のとおり、本活動は GAPPA noto の活動方針に則り、仮設住宅団地における住環境の改善と豊かなコミュニティの形成を支援する目的で行われた。仮設住宅では、生活・収納空間の不足や断熱性能の不足といった機能的問題に加え、住民の社会的孤立や孤独感の増大といった社会的・心理的問題が生じている。これらを少しでも緩和することを念頭に、活動を行った。

## 3. 活動の内容

具体的には、まなピタ製作配布、収納力アップ大作戦、グリーンカーテン設置、風鈴づくりワークショップ、とり野菜みそパーティーなど、垣吉町第一団地自治会と連携して実施し、団地の住環境改善とコミュニティ形成を支援した。具体的な活動内容は以下である。

### ■2025年5月8日：まなピタ製作配布

仮設住宅団地では、居住空間が狭小であることから、限られた生活空間を効率的に活用する工夫が求められている。その改善点の一つとして収納空間の確保が挙げられる。特にキッチン周辺では作業スペースが不足しており、まな板を置く場所にも困る状況が見られた。

そこで、磁石によって冷蔵庫側面などに固定し、省スペースで収納できるまな板「まなピタ」を製作し、希望者へ配布した。

### ■2025年5月25日：集会所の靴箱の製作＋グリーンカーテンの設置

垣吉町第一団地の集会所には簡易な靴箱が支給されていたものの、使い勝手の悪さから十分に活用されておらず、イベント開催時には玄関先に靴が置き切れない状況が生じていた。そこで、研究室にて木製靴箱をデザイン・製作し、集会所に設置した。これにより玄関周辺の整理と動線の改善を図った。

また同日、NPO法人緑のカーテン応援団との協働により、夏季の日射緩和を目的とした、グリーンカーテンの設置を行った。ゴーヤは管理が比較的容易で生育も旺盛であり、多くの住戸で順調に繁茂し、夏季には日射遮蔽と室内温度上昇の抑制に寄与する緑陰環境が形成された。

### ■2025年7月12日：収納大作戦＋かき氷フェス

参加住民の皆様から、収納に関して実際に困っている点について個別に相談を受け、仮設住宅における収納の工夫や整理整頓のアイデアを紹介した。あわせて、希望者には即日施工が可能な簡易改修を実施し、収納環境の改善に努めた。具体的には、キッチンへの棚の追加や玄関上部への棚の設置などを行った。また、洗濯機上部への収納設置など、材料の追加準備が必要なものについては、次回訪問時に対応することとした。

同時に、集会所において「かき氷フェス」を開催した。暑い季節に少しでも涼を感じてもらうことを目的に、参加者同士で様々な味のかき氷を作って共に味わい、歓談や交流の場を設けた。

#### ■2025年8月5日：収納大作戦+オリジナル風鈴づくりWS

前回に引き続き収納改善活動（収納大作戦）を実施するとともに、集会所ではオリジナル風鈴づくりワークショップを開催した。参加者には無地のガラス風鈴に自由に絵付けを行ってもらい、それぞれの個性が反映された作品が完成した。完成した風鈴は各家庭に持ち帰られ、涼やかな音色とともに生活空間を彩るものとなった。作業中には参加者同士の歓談も自然に生まれ、交流促進の良い機会となった。

#### ■2025年11月30日：収納大作戦+とり野菜みそ鍋パーティー

引き続き収納改善活動（収納大作戦）を実施するとともに、田鶴浜発祥の郷土料理「とり野菜みそ鍋」を調理し、希望する住民と会食を行った。参加学生は、住民の方々にみその味加減を確認してもらいながら調理を進めるなど、準備の段階から自然な交流が生まれた。冬の寒さが本格化する時期に、温かい食事を囲んで共に時間を過ごす機会を設けることができ、住民同士および学生との親睦を深める有意義な活動となった。

#### ■オリジナル段ボール収納の開発・製作・配布

北陸エリアの段ボール製造会社であるサクラボックス株式会社との協働により、仮設住宅への配布を想定した段ボール製オリジナル収納家具の製作・配布を現在進めている。段ボール素材を活用することで、軽量で製造コストが低く、さらに廃棄時においても入居者の負担や環境負荷の少ない家具の提供が可能になると期待される。

デザイン案については、GAPPAnotoに参加する各大学の学生によるコンペ形式で募集し、藤井研究室所属の学生の提案が最優秀賞に選定された。現在は製品化に向けた最終調整を行っており、今後、製造・配布を予定している。

### 4. 活動の成果

1年を通して継続的に仮設住宅を訪問し、安定した支援活動を実施することができた。居住者の生活実態に寄り添った支援を着実に展開した結果、毎回の活動に継続して参加する住民も見られるなど、信頼関係の構築が進んだ。また収納不足や温熱環境といった機能的課題への対応に加え、会食やワークショップ等の実施を通して住民同士の交流機会を創出し、コミュニティ形成の促進にも寄与する活動となったと総括できる。

### 5. 今後の活動計画

次年度も本活動を継続して実施する予定である。仮設住宅における住民の生活再建の進捗は世帯ごとに異なり、すでに自力再建を果たした世帯がある一方で、引き続き仮設住宅団地での生活を継続する世帯も多い。また、垣吉町第一団地では住民の入れ替わりも生じており、居住状況は流動的である。今後もこれまでと同様に、2か月に1回程度の現地活動を基本としつつ、仮設住宅生活の長期化および住民構成の変化を踏まえ、生活支援とコミュニティ形成の双方に配慮した継続的な支援活動を展開していく。

### 6. 活動に対する地域からの評価

仮設住宅への入居当初は、地域のコミュニケーションをどのように築いていけばよいか不安があったが、金沢工業大学の学生が訪問し、収納の改善や交流の場づくりに取り組んでくれたことが大変うれしかった。住民には高齢者が多いため、若い学生たちが熱心に活動している姿は大きな励みとなった。